

各資格・検定試験の実施概要（2019年8月時点）

資格・検定試験の名称	目的・特長	既存の検定との違い	検定料	受験対象者	申込方法	出題形式
ケンブリッジ英語検定	A2 Key	<ul style="list-style-type: none"> 「実生活のさまざまな局面で、コミュニケーションのために英語をどのように使うことができるか」を評価。 世界中の教育機関や企業、政府から高い評価を受けており、受検者は年間250万人。 対面ベア型による「伝えること」を重視したインタラクティブなスピーキング試験。 	既存の検定との違いはない。	9,000円(税別) 経済的困難者向けの検定料は検討中	1) 共通IDを記入した高校3年生及び既卒者 ケンブリッジ英語検定は、一般財団法人日本ケンブリッジ英語検定機構と、複数の認定試験センターが実施しています。大学入試英語成績提供システムで成績結果を活用できるのは、一般財団法人日本ケンブリッジ英語検定機構主催の試験のみとなります。 2) 誰でも受験が可能 認定試験センター（河合塾、Z会ソリューションズ等）主催のケンブリッジ英語検定 これらの認定試験センターが主催するケンブリッジ英語検定の成績結果は、大学入試英語成績提供システムに登録されません（共通IDの入力も不要）。なお、各認定試験センター主催試験で得た成績結果は、大学入試英語成績提供システム以外で活用することができます（大学入試英語成績提供システムに参加していない大学の個別入試など）。	・公開試験は、個人が専用ウェブサイトにより申し込む。 ・団体受検の場合は、団体（学校単位）にて専用ウェブサイトにより団体受検を申し込む。
	A2 Key for Schools					
	B1 Preliminary					
	B1 Preliminary for Schools					
	B2 First					
	B2 First for Schools					
	C1 Advanced					
C2 Proficiency						
IELTS (IDP: IELTS Australia) 対象：「アカデミック・モジュール」	英語を使用する環境に必要な英語運用能力を測定する。 大学入試英語成績提供システムで利用されるアカデミックモジュールのIELTSは、英語の教育環境に必要な英語力を評価するため、国内外の高等教育機関で入学時の英語力判定に利用されている。	特になし	通常25,380円（税込） 経済的困難者向けの検定料は検討中	誰でも受験が可能（※ IELTSは16歳以上の受験を推奨しています）	・個人が専用ウェブサイトより申し込む。	RLW:PBT S:対面式
IELTS (British Council) 対象：「アカデミック・モジュール」	<ul style="list-style-type: none"> 国内：100以上の大学の入試で活用 国外：10,000以上の機関が認定 					
TOEFL iBTテスト	【目的】 高等教育機関において英語を用いて学業を修めるのに必要な英語力を有しているかを測ることを目的とする。 【特長】 英語をどれだけ「知っているか」ではなく、「使えるか」に焦点をあて、より実生活に即したコミュニケーション能力を測定する世界基準の英語能力試験。150か国、10,000以上の団体が入学選考等で英語力の証明として同テストを利用。 ※下記TOEFLテスト公式WebサイトページではTOEFL iBTテストの特長などを日本語で説明。またサンプル問題や勉強法などのリンク先も掲載されている。 https://www.ets.org/jp/toefl/ibt/about/content/	既存のTOEFL iBTテストと同じ試験を実施するため違いはない。	235 U S ドル ※見直しの可能性有 経済的困難者は15%減額	誰でも受験が可能	・個人がTOEFLテスト公式Webサイト (https://www.ets.org/toefl) 上で個人アカウントページ (My TOEFL Home) を作成の上、同ページから受験申込を行う。	RLWS:CBT
GTEC	Advanced	<ul style="list-style-type: none"> 英語を使うことができるかのコミュニケーション力（運用力）を絶対評価型スコアにより測定 大学入試で一般・推薦・AO入試と幅広く活用されています 以下のURLよりサンプル問題をご覧ください (https://www.benesse.co.jp/gtec/fs/question/) 	<ul style="list-style-type: none"> 試験監督および試験会場は弊社手配となります。 試験の難易度や採点基準については、既存の検定との違いはありません。 	6,700円(8%税込) 経済的困難者向けの検定料については検討中	申込時に共通IDを入力した高校3年生及び既卒者	・個人が専用ウェブサイトにより申し込む。
	Basic					
	Core					
GTEC CBT	<ul style="list-style-type: none"> 英語を使うことができるかのコミュニケーション力（運用力）を絶対評価型スコアにより測定 大学入試で一般・推薦・AO入試と幅広く活用されています 以下のURLよりサンプル問題をご覧ください (https://www.benesse.co.jp/gtec/fs/question/) 	既存の検定との違いはありません。	9,720円(8%税込) 経済的困難者向けの検定料については検討中	誰でも受験が可能	・個人が専用ウェブサイトにより申し込む。	LRW:PBT, S:CBT
TEAP	EFL環境の大学で行われる授業等で行う言語活動において英語を理解したり、考えを伝えたりすることができるかを評価する。 ・全国201大学が活用（2019年2月現在）	特になし	15,000円（税込） 経済的困難者向けの検定料につきましては、今後何か公表できる内容があれば、ウェブサイトにてご案内致します。	・高校1年生以上	・個人が専用ウェブサイトより申し込む。 ※TEAP団体専用クーポン利用型申込あり (受験申し込み手続きを受験者個人が行い、受験料の全額、または一部を学校（団体）にお支払いいただく方式)	RL : PBT W : PBT S : 対面式
TEAP CBT	ICTを活用した出題を行い、EFL環境の大学で行われる授業等で行う言語活動において、英語を理解したり、考えを伝えたりすることができるかを評価する。 ・全国116大学が活用（2019年2月現在）	特になし	15,000円（税込） 経済的困難者向けの検定料につきましては、今後何か公表できる内容があれば、ウェブサイトにてご案内致します。	・高校1年生以上	・個人が専用ウェブサイトより申し込む。	RL : CBT W : CBT S : CBT（吹き込み）
英検CBT 準1級～3級の4グレード B2～A1	準1級	<ul style="list-style-type: none"> 英語圏における社会生活（日常・アカデミック・ビジネス）に必要な英語を理解し、使うことができるかを評価する。 大学入試において約380大学が活用。海外留学において約370の海外大学が認定。 	<ul style="list-style-type: none"> RLWSはPBTではなく、全てCBT方式で実施。 (Sは対面式ではなく、吹き込み) その他、問題形式、難易度、級認定、CSEスコアの取得、一次試験免除資格の付与等、すべて従来型の英検と違いはない。(ただし、一次試験免除資格での受験は不可) 	9,800円（税込） 経済的困難者向けの検定料につきましては、今後何か公表できる内容があれば、ウェブサイトにてご案内致します。以下、英検全級及び方式については同様	・制限なし	・個人が専用ウェブサイトより申し込む。 ・毎月実施する試験ごとに申込を受け付ける。
	2級			7,500円（税込）		
	準2級			6,900円（税込）		
	3級			5,800円（税込）		
	英検2020 1 day S-CBT 準1級～3級の4グレード B2～A1			<ul style="list-style-type: none"> Sは対面式ではなく、CBT（吹き込み）方式で実施。 その他、問題形式、難易度、級認定、CSEスコアの取得、一次試験免除資格の付与等、全て従来型の英検と違いはない。(ただし、一次試験免除資格での受験は不可) 		
英検2020 2 days S-Interview 1級～3級の5グレード C1～A1	1級	<ul style="list-style-type: none"> 実施方式は、従来型の英検と違いはない。 対象受験者は、高校3年生・既卒生の内、CBT方式では対応することのできない、吃音者を含む、点字やテロップ、筆談等の合理的配慮が必要な障がいのある方向けとする。 	16,500円（税込）	・高校3年生、及び既卒生のうち、CBTでは対応できない吃音者を含む、点字・テロップ・筆談等の合理的配慮が必要な障がいがある受験生で、共通IDを利用して受験する方	・個人が専用ウェブサイトより申し込む。 ・「予約申込」と「本申込」の2ステップが必要。 「予約申込」をされた方の席数は必ず確保され、「本申込」の際に受験会場を選択いただく。	
	準1級		9,800円（税込）			
	2級		7,500円（税込）			
	準2級		6,900円（税込）			
	3級		5,800円（税込）			

<留意事項>

- ・本資料については、各試験実施主体からの回答をもとに、文部科学省でとりまとめたものとなります。今後も最新の情報に更新してまいります。
- ・用語の説明 R : Reading, L : Listening, W : Writing, S : Speaking PBT : 紙による出題形式 CBT : コンピュータによる出題形式
- ・ケンブリッジ英語検定のA2 Key/for Schools, B1 Preliminary/for Schoolsは2020年1月以降改訂後の情報を反映。
- ・従来型の英検は、一次試験（書く、読む、聞く）の合格者のみが二次試験（話す）を受験できる仕組みとなっており、1回の試験で英語4技能を評価する試験となっていないため、本システムの参加試験とはなっていません。

資格・検定試験の名称	CBT方式の受験方法	時間(分)				配点(点)				実施・運営方法	
		R	L	W	S	R	L	W	S		
ケンブリッジ英語検定	A2 Key	該当なし	60 (R&W)	約30	60 (R&W)	約8	150	150	150	150	<ul style="list-style-type: none"> 公開試験は、第三者に運営を委託し、第三者が提供する公開会場において開催。 団体受験については、高校会場を利用するが、教職員は鍵の開錠・施錠のみ。 試験問題については、会場に当日配送・当日回収。
	A2 Key for Schools		60 (R&W)	約30	60 (R&W)	約8	150	150	150	150	
	B1 Preliminary		45	約30	45	約12	170	170	170	170	
	B1 Preliminary for Schools		45	約30	45	約12	170	170	170	170	
	B2 First		75	約40	80	約14	190	190	190	190	
	B2 First for Schools		75	約40	80	約14	190	190	190	190	
	C1 Advanced		90	約40	90	約15	210	210	210	210	
C2 Proficiency		90	約40	90	約16	230	230	230	230		
IELTS (IDP: IELTS Australia) 対象：「アカデミック・モジュール」	該当なし	60	40	60	11～14	各技能につき、0～9(0.5刻み)				各地域を管轄するIDP公式テストセンターにより実施・運営される。北海道、東北、関東、北陸、中部、関西、中国エリアの一部(岡山、広島)のエリアでは主に大学を会場として利用することを予定。山口県、九州エリア、沖縄においては実施団体のキャンパスを会場として使用	
IELTS (British Council) 対象：「アカデミック・モジュール」	該当なし	60	30	60	11～14					プリティッシュ・カウンシルと英検協会の管理の下、テストセンターや大学等の教育期間で実施。	
TOEFL iBTテスト	全セクションをコンピュータ上で受験。 ・ Reading：コンピュータ画面に表示される問題にマウスを使用し解答 ・ Listening：マイク付ヘッドフォンを使用して音声を聞き、コンピュータ画面に表示される問題にマウスを使用し解答 ・ Writing：マイク付ヘッドフォンを使用して音声を聞き、コンピュータ画面に表示される問題にキーボードを使用し回答をタイピングする ・ Speaking：マイク付ヘッドフォンを使用して音声を聞き、コンピュータ画面に表示される問題にマイクを通じて回答を発話する	54～72	41～57	50	17	30	30	30	30	<ul style="list-style-type: none"> 第三者(プロメトリック株式会社)に委託し、TOEFL iBTテスト会場として登録されているテストセンターや大学等の教育機関で実施。 各テスト会場にはコンピュータ(受験者一人につき1台)を設置、問題の配信、解答の送信は全てインターネット経由で行われる。 	
GTEC	Advanced	スピーキングについては、タブレット機器への吹き込み方式による回答	約45	約25	約25	約25	上限320	上限320	上限320	上限320	<ul style="list-style-type: none"> 弊社意向調査の結果を踏まえ、公開会場を設置します。 弊社が手配する監督者が実施運営を行います。 試験問題については、会場に当日配付・当日回収。
	Basic		約45	約25	約25	約25	上限270	上限270	上限270	上限270	
	Core		約32	約20	約25	約25	上限210	上限210	上限210	上限210	
GTEC CBT	<ul style="list-style-type: none"> リーディングについては、マウスによるクリック回答 リスニングについては、ヘッドセットを装着し、マウスによるクリック回答 ライティングについては、キーボードへの打ち込み方式による回答 スピーキングについては、ヘッドセットを装着し、吹き込み方式による回答 	約55	約35	約65	約20	上限350	上限350	上限350	上限350	<ul style="list-style-type: none"> テストセンターおよび弊社手配の公開会場を設置します。 弊社手配の監督者が実施運営を行います。 	
TEAP	RLWSは全てPBT方式	70	50	70	10	100	100	100	100	<ul style="list-style-type: none"> 英検協会の管理の下、公開会場において実施。大学・高校等の教育機関を借用する可能性有り 	
TEAP CBT	<ul style="list-style-type: none"> RLWSは全てCBT方式 Rは、マウスをクリックして解答します。 Lは、ヘッドセットで音声を聞き、マウスをクリックして解答します。 Wは、キーボードを使って解答を入力します。 Sは、ヘッドセットを使い、吹き込み形式で解答の音声を録音します。 	80	40	50	30	200	200	200	200	<ul style="list-style-type: none"> 英検協会の管理の下、テストセンターにおいて実施。大学等の教育機関を借用する可能性有り 	
英検C B T 準1級～3級の4グレード B2～A1	準1級	<ul style="list-style-type: none"> RLWSは全てCBT方式 Rは、マウスをクリックして解答します。 Lは、ヘッドセットで音声を聞き、マウスをクリックして解答します。 Wは、キーボードを使って解答を入力します。 Sは、ヘッドセットを使い、吹き込み形式で解答の音声を録音します。 	90 (W含む)	30	-	15	750	750	750	750	<ul style="list-style-type: none"> 英検協会の管理の下、テストセンターにおいて実施。大学・高校等の教育機関を借用する予定は無い
	2級		85 (W含む)	25	-	15	650	650	650	650	
	準2級		75 (W含む)	25	-	15	600	600	600	600	
	3級		50 (W含む)	25	-	15	550	550	550	550	
英検2020 1 day S-CBT 準1級～3級の4グレード B2～A1	準1級	SはCBT方式	90 (W含む)	30	-	15	750	750	750	750	<ul style="list-style-type: none"> 英検協会の管理の下、テストセンターにおいて実施。大学・高校等の教育機関を借用する予定は無い
	2級	Sは、ヘッドセットを使い、吹き込み形式で解答の音声を録音します。	85 (W含む)	25	-	15	650	650	650	650	
	準2級		75 (W含む)	25	-	15	600	600	600	600	
	3級		50 (W含む)	25	-	15	550	550	550	550	
英検2020 2 days S-Interview 1級～3級の5グレード C1～A1	1級	該当なし	100 (W含む)	35	-	10	850	850	850	850	<ul style="list-style-type: none"> 英検協会の管理の下、全国の公開会場において実施。大学・高校等の教育機関を借用する可能性有り
	準1級		90 (W含む)	30	-	8	750	750	750	750	
	2級		85 (W含む)	25	-	7	650	650	650	650	
	準2級		75 (W含む)	25	-	6	600	600	600	600	
	3級		50 (W含む)	25	-	5	550	550	550	550	

<留意事項>

- 本資料については、各試験実施主体からの回答をもとに、文部科学省でとりまとめたものとなります。今後も最新の情報に更新してまいります。
- 用語の説明 R：Reading, L：Listening, W：Writing, S：Speaking PBT：紙による出題形式 CBT：コンピュータによる出題形式
- ケンブリッジ英語検定のA2 Key/for Schools, B1 Preliminary/for Schoolsは2020年1月以降改訂後の情報を反映。
- 従来型の英検は、一次試験(書く、読む、聞く)の合格者のみが二次試験(話す)を受験できる仕組みとなっており、1回の試験で英語4技能を評価する試験となっていないため、本システムの参加試験とはなっていません。

資格・検定試験の名称		障害等のある受験生への合理的配慮	
		申請方法	成績表示方法
ケンブリッジ英語検定	A2 Key	Special Arrangements Form（特別手配フォーム）に身元が保証された医師による診断書を添付のうえ申請する。 ※（吃音を含む）発話に困難を伴う受験者については、必ずしも医師の診断書である必要はなく、医師の診断書に限らず、言語聴覚士等のリハビリテーション専門職による意見書、公認心理師等による意見書も医師の診断書同様の証明として扱わせて頂きます。	Q. 受検上の配慮として一部技能の免除を行った場合、どのように成績表示されるのか。総合スコアはどのように扱われるのか。 A. 一つの技能テスト（例：リスニングテスト）が免除になった場合、そのスキルの成績の箇所に「EXEMPT」と記載されます。受検上の配慮が講じられた場合は、認定証のグレードの横にXが付され、裏面にその旨補記されます。ただし、EXEMPT（免除）になった場合、Cambridge English スケールスコアは免除されたスキルテスト（例：リスニングテスト）以外（例：リーディング、ライティング、スピーキングテスト）の平均値で全体評価が求められます。「EXEMPT」免除により、全体評価にマイナスの影響が与えられることはありません。
	A2 Key for Schools		
	B1 Preliminary		
	B1 Preliminary for Schools		
	B2 First		
	B2 First for Schools		
	C1 Advanced		
C2 Proficiency			
IELTS (IDP: IELTS Australia) 対象：「アカデミック・モジュール」		IELTS公式テストセンターへ直接連絡を行う。詳細は https://www.ieltsjp.com/about-us/special-requirements/ なお、特別処置の対応には時間がかかる場合があり、（一部を除き）テスト6週間前までに申請が必要	免除された技能がある場合、成績証明書のコメント欄に免除された技能が記載される。免除された技能のスコアは残りの技能のスコアの平均スコアが表示される。
IELTS (British Council) 対象：「アカデミック・モジュール」		特別措置を御希望の方は受験希望日3ヶ月前までにテストセンターにメールにて診断書添付の上、受験希望の連絡を行う。	
TOEFL iBTテスト		・ 受験日の設定前（6週間以上前まで）に、ETS Disability Servicesに郵送又は電子メールで申請書を提出。 ・ 申請書の受領後、約6週間の審査を経て対応可の場合は承認書が送付される。 ※受験申込前に、必ずETS Disability Servicesに連絡し、承認を得る必要がある。 ※書類に不備がある場合（再提出が必要な場合）、書類の審査にさらに6週間かかるため、書類はできるだけ早く提出すること。	ETS発行のスコアレポートには受験した技能のスコアのみ表示される。なお「大学入試英語成績提供システム」を利用する場合のみ、受験した技能のスコアの合計点およびCEFRが表示される予定。
GTEC	Advanced	・ 試験申込手続き前かつ、各検定お申込み締切日の6週間前までに、申請書（医師の診断書も必要）を別途指定する方法で提出。 ・ 申請書の受領後、対応可否について、通常2週間以内に電話等にて連絡（その後、本申し込みは別途必要）。	一部技能免除の場合は、免除される技能以外で技能ごとのスコアを合算して平均し、免除される技能の仮スコアを算出する。
	Basic		
	Core		
GTEC CBT		・ 試験申込手続き前かつ、各検定お申込み締切日の6週間前までに、申請書（医師の診断書も必要）を別途指定する方法で提出。 ・ 申請書の受領後、対応可否について、通常2週間以内に電話等にて連絡（その後、本申し込みは別途必要）。	一部技能免除の場合は、免除される技能以外で技能ごとのスコアを合算して平均し、免除される技能の仮スコアを算出する。
TEAP		・ 特別措置をご希望の方は期日までに特別措置申請を行う。	・ 技能免除があった場合、その免除技能のスコアとCEFRレベルは提供されません（ハイフンとして表示されます）。ただし、総合スコアと総合CEFRレベルは提供されます（受験技能の合計スコアから算出します）。
TEAP CBT		・ 障がい等のある方への特別措置対応は、「TEAP（PBT）」にて承っている。 ・ 特別措置をご希望の方は期日までに特別措置申請を行う。	技能免除などは行わないため、成績表には合理的配慮に関する記載はない。
英検C B T 準1級～3級の4グレード B2～A1	準1級	申込時に特別措置申請を行う。	技能免除などは行わないため、成績表には合理的配慮に関する記載はない。
	2級		
	準2級		
	3級		
英検2020 1 day S-CBT 準1級～3級の4グレード B2～A1	準1級	予約申込時に特別措置申請を行う。 ※障がいの区分等によりCBT方式かS-Interviewで受験するかが変わります。予約申込時に診断書のご提出等をお願いし、英検協会が提携している合理的配慮に造詣の深い有識者の先生のご意見も伺いながら、受験者との協議のうえで決定します。	技能免除などは行わないため、成績表には合理的配慮に関する記載はない。
	2級		
	準2級		
	3級		
英検2020 2 days S-Interview 1級～3級の5グレード C1～A1	1級	予約申込時に特別措置申請を行う。 ※障がいの区分等によりCBT方式かS-Interviewで受験するかが変わります。予約申込時に診断書のご提出等をお願いし、英検協会が提携している合理的配慮に造詣の深い有識者の先生のご意見も伺いながら、受験者との協議のうえで決定します。	技能免除などは行わないため、成績表には合理的配慮に関する記載はない。
	準1級		
	2級		
	準2級		
3級			

<留意事項>

- ・本資料については、各試験実施主体からの回答をもとに、文部科学省でとりまとめたものとなります。今後も最新の情報に更新してまいります。
- ・用語の説明 R：Reading, L：Listening, W：Writing, S：Speaking PBT：紙による出題形式 CBT：コンピュータによる出題形式
- ・ケンブリッジ英語検定のA2 Key/for Schools, B1 Preliminary/for Schoolsは2020年1月以降改訂後の情報を反映。
- ・従来型の英検は、一次試験（書く、読む、聞く）の合格者のみが二次試験（話す）を受験できる仕組みとなっており、1回の試験で英語4技能を評価する試験となっていないため、本システムの参加試験とはなっておりません。